

四季折々の気仙沼大島の魅力で インドネシア人観光客を呼び込もう！

1213A班

I 序論

自然×観光で研究を進めた

【取り組み】

気仙沼大島に観光客を呼び込む

東日本大震災発生

水産業だけでは
リスクが大きい

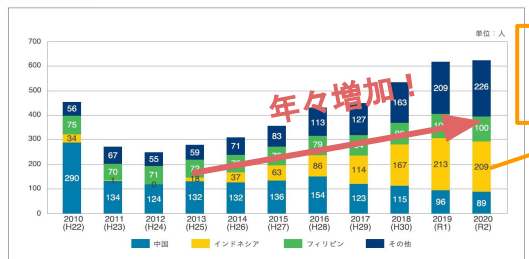
観光業も発展
させる必要がある

まずは観光にぴったり
な大島を広めたい

“漁業のまち”
として栄えてきた

大橋が建設され、簡単
に足を運べるようになった！

●在住外国人数



インドネシア人の
割合

◀気仙沼市の在住
外国人人数 ※1

近年増加傾向にあるインドネシア人を大島に呼び込むことで、大島の経済の活性化に貢献することが出来るのではないかな？

II 本論

方法 a インスタグラムの活用

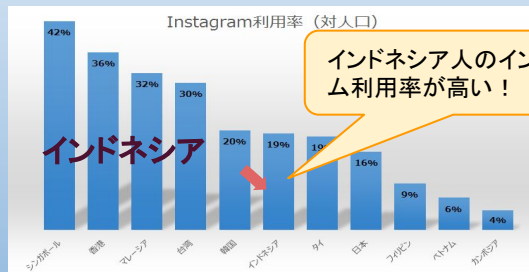
気仙沼在住のインドネシア人

…遠洋漁業や近海漁業を目的として来ている方が多い

→勤務中は海に出ているため、気仙沼でのポスター等の掲示は効果が期待されないのではないかな

→SNSでの宣伝が適している

→インドネシア人の利用率が多いインスタグラムで宣伝することに



インドネシア人のインスタグラム利用率が高い！

◀国別Instagram利用率 ※2

アカウント: https://instagram.com/wori_____wori

実際にインドネシアの方々にフォローしていただき、現在でもフォロー様が増え続けています。

また、気高生の協力で、アカウントの存在を気仙沼に住む方にも広めていただきました。

方法b 手作りのリーフレットを配布

○インドネシア

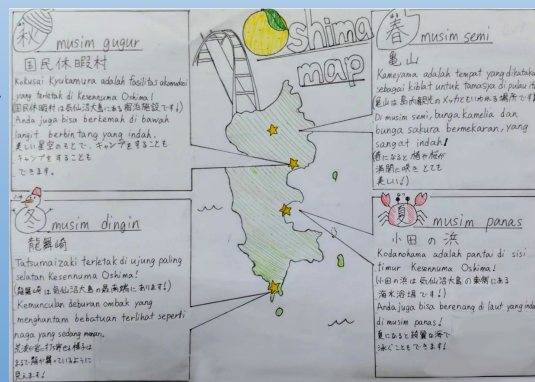
●日本と同じ島国 ●熱帯(四季がない)

→生活様式が似ているインドネシアの方々に、日本の四季がみせる季節の移ろいや、生活様式の変化等の魅力を伝えたい

春夏秋冬それぞれのアピールポイントとともに大島についてまとめたリーフレットを自分たちで作成し、配布したい！

実際に作成したリーフレット(後日その場所を撮影した写真を空白部分に入れる予定)▼

リーフレットは簡単な日本語とインドネシア語で書いており、裏面には自分たちでデザインしたオリジナルキャラクターも掲載しています。



III 結論・まとめ

気仙沼の経済を潤すために、大橋が建設され訪れやすくなり、四季折々の魅力がある気仙沼大島の存在を広めることが効果的だと考えた。

SNSを利用することで、漁業で気仙沼を出ているインドネシア人にも情報を発信することができる。気仙沼大島の魅力を分かりやすくまとめたリーフレットを作成し配布することで、大島の経済の活性化に貢献できると考えた。

IV 課題・今後の活動

〈課題〉

リーフレットを作るにあたって、実際にインドネシアの方にお話を伺うことができなかった。

リーフレットにインドネシアの方が訪れたいようなスタンプラリーなどの工夫を取り入れることができなかった。

〈活動〉

アピールポイントとして取り上げている場所に実際に行き、自分たちで撮影した写真を取り入れたい。

リーフレットがまだ未配布なため、インドネシアの方が経営している料理店等で設置してもらおう。

参考文献

https://www.kesenuma.miyagi.jp/sec/s019/03-1-1_kouki_taiwa_kvousou_kyoudou.pdf (※1)

<https://blog.members.co.jp/article/26137> (※2)